



今昔 みる 白根

【15】

昭和十六年ころの白井町並み【写真】降り積もった雪が、のどかさを伝えてくれます。今では、四十軒余りある商店も、そのころはたったの十五、六軒—商店数がふえるにした



信濃川漁協の人たちが 鯉三万匹を放流

九月十八日、白井橋のたもとで、信濃川漁業協同組合の人たちが、真鯉三万匹を信濃川に放流しました。信濃川に魚がいなくなることを



を心配して、漁協の人たちが毎年自分たちで行なっているもの。「それでも年々減っている」と漁協の小林さんはいう……。放された鯉は、いずれも体長十センチ以上で育った二年鯉ばかり。漁協の人たちの期待をになつて、元氣よく泳いで行きました。

訂正とおわび

九月号広報しろね号外で、各地区で敬老会の文中、「六十五歳以上のお年寄りを招待」とありましたが、七十歳以上のあやまりでした。また、白根地区の敬老会は産業厚生会館でしたので、訂正しておわびいたします。

贈り物にうれし涙

園児とお年寄りのお楽しみ会

九月二十日白根保育園で、園児とおじいさん、おばあさんのお楽しみ会が行なわれました。この催しは、お孫さんたちの成長ぶりをおじいさん、おばあさんたちから見てもらおうと、毎年行なわれているもの。



がって、白井の町も発展してきたといえます。しかしながら、最近では町並みを走る車が増加する一方です。地元でもバイパス線が必要という声がかかります。(白井金子文次さん保存)

一生懸命練習した自慢の歌を披露



家でやんちゃ坊主のお孫さんたち。それでも、おじいさんおばあさんたちにとっては、目の中に入れても痛くないほど、かわいいものです。園児たちも、それを知ってこの日は大サービス。一生懸命練習した、歌や踊りを披露し手作りのネットレスをプレゼント。お孫さんたちからの、思い

した着食用菊の栽培

稲作転換事業として、三年前から本格的に取り組まれている食用菊の栽培が、白井、大郷地区などで定着化しています。今日も、朝早くから摘みとられた菊が、大郷の運果場に運ばれてきます。今年、大雪の影響などで出荷時期が遅れましたが、消費力

市青年屋外活動 交歓のつどい

▽とき 十月二十日、午前八時三十分教育センター集合。
▽ところ 五頭山麓県民公園の森。
▽参加申し込み 十二日まで教育センター指導係(電話二八〇〇)へ、申し込んでください。

郷土を語る 集い

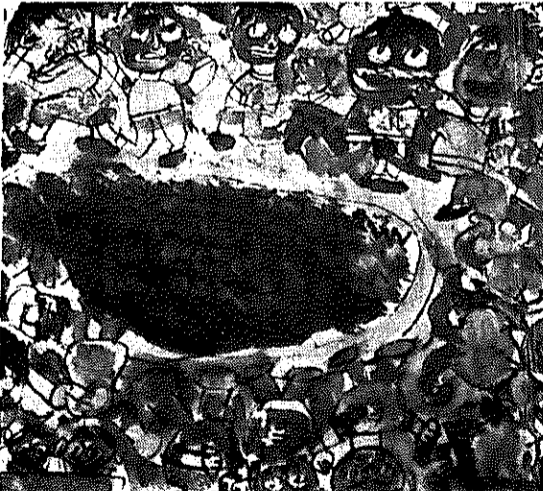
古きを訪ねて新しきを知るとかいいますが、激しい時代の荒波が美田を押しつぶし、古い家を取りこわす……。こんな様子を見るとき、私は古文書などが捨てられ、あるいは焼却され、歴史が忘却の谷間に置き去られるのが心配でなりません。

一刻も早く、消え行く古文書などを保存することが必要かと思えます。そして市が中心となって、歴史愛好会グループを作り、郷土を語る会など持たれてはどうでしょうか。郷土史編集の足がかりにもなると思うのですが……。

市民文芸

川柳

白根 長井徳平
まな板の音に新妻とび起さる
白根 中村尚治
百円のせいたく一番風呂で酔い
白根 高橋祐四雄
善光寺は二度目覚めぐりを省く
白根 花岡増男
無理したグリーン車立ったり座
白根 今井七郎
人口危機行末なやむ第三子



紙上テッサン

(19)



運動会

絵 風間善幸(松橋小三年)
「ガンバレー」、「ガンバレー」と、グラウンドいっぱいには声が飛びかいます—各地区では運動会のたけなわ。玉入れ競争やリレーにと、老いも若きも一生懸命。フワフワ—といいながらも走ったあとの気分は、スカットさわやか……。家族、友達、町内対話の広場にもなります。

郷土発掘



これらの先住民が具体的にどこから来たのか知り得ないが、ただ古代の律令制以後着々と推進せられていた北陸経営の開拓政策の波及として各地から散発的に移住してきたものと考えられる。(1)にもふれたが小吉島の地形が南高北低に加えて中心部が低く、たとえるとスプーン状であったから丁度柄のつけ根の部分(新飯田・茨倉根付近)に先ず定住したわけである。また、この地形が後に述べるが、信濃河・中之口川の水のゆるゆる外水と玄長堀を主要水路として中心部及び下部に流るゆるゆるの内水の処理問題、複雑な行政制度を媒介として悲劇的な対立感情が醸成されていくのである。それはともかくとして、要するに古代国家の基本政策と人口の増加、社会経済の発展、社会秩序の流動化

白根の おいたち

それまで茨倉根の館が開拓の本拠であったのだがたび重なる流路の変更による水害が主な理由と思われるが、比較的に地が高く水流のおだやかな庄瀬が本拠地に変更決定されたのである。周知の如く長尾氏は名目的存在であって、実質的権力は上杉氏の管掌する所であった。上杉氏の信濃、関東出兵は単に権力拡大のみ意図するばかりでなく、物的・人的財産資源の確保が主な眼目であった。遠征地からの物品並に農民の捕獲及び強制連行によって越後の農業開発を促進し経済を発展せしめ併せて徴兵を有利にすることであった。つまり、当時全国的に行われていた、富国強兵政策の具体的表現であったわけである。(原文のまま・T)